

西伊豆豪雨 平成25年7月17日～18日の 豪雨災害について

■ 藤 井 武 彦* ■

1. 西伊豆町の概要

西伊豆町は、静岡県東部、伊豆半島西海岸の中央に位置し、西側は駿河湾に、東側は急峻な山並みの天城山系が連なり、北と南にその支脈が海岸まで迫っています。

東西約12.5km、南北約12kmで面積は105.52km²の町域で約90%が山林となっております。富士箱根伊豆国立公園及び名勝伊豆西南海岸の指定を受けた自然景観に恵まれ、水平線に沈む美しい夕陽はまちの誇りとなっています。

当町は、平成17年4月1日に西伊豆町と賀茂村が合併し、現在の西伊豆町となり、来年4月には合併して10年の節目を迎えます。



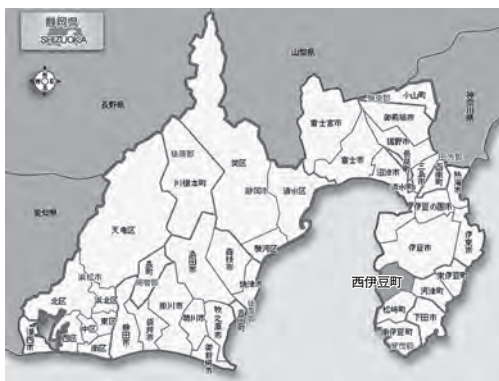
人口は約9千人で高齢化率は43.9%と県内で二番目に高い高齢化率となっており、また、少子化と高齢化の進行により人口減少に歯止めがかからない状況となっております。

新町発足後、町の将来像として定めた「ふるさと」と言いたくなる夕陽のまち」をキャッチフレーズに

協働のまちづくりを進めてきました。

自然景観や温泉、海の幸など多くの観光資源に恵まれ、「日本一美しい夕陽」や「瀬浜海岸のトンボロ現象」、青の洞窟を彷彿させる国の指定天然記念物である「堂ヶ島の天窓洞」、黄金崎公園の「馬ロック」などの数々の観光資源をお目当てに多くの観光客に訪問していただいているところです。また、本年3月には庁内で「ふるさと納税プロジェクトチーム」を発足し、6月から本格的に始動した結果、10月末には開始からわずか5カ月で1億円を突破することができました。

都内へのイベント参加、出版社やマスコミ各社へのアプローチなどプロジェクトチームの積極的な取り組みが成果として表れると同時に、当町の郷土資源が全国の納税者の皆様に認められた結果であると、今後の展開を楽しみにしているところです。



位置図

* Takehiko Fujii 静岡県西伊豆町長

2. 被災地区について

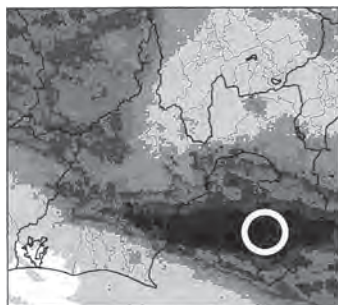
当町は、宇久須、安良里、田子、仁科、中、一色、大沢里と6つの地区があります。今回の災害による被害は町全体に及びましたが、宇久須、安良里、田子の3地区に被害が集中していました。土石流の発生した（二）安良里浜川沿いは家屋が密集していたことから、28棟で床上、160棟で床下浸水の被害を受けました。

当町において、これほどまでの大きな災害は近年例がなく、56年前の昭和33年9月26日～28日に伊豆半島と関東地方に甚大な被害を与えた狩野川台風以来、町民の大多数の方が経験したことがない甚大な被害となりました。

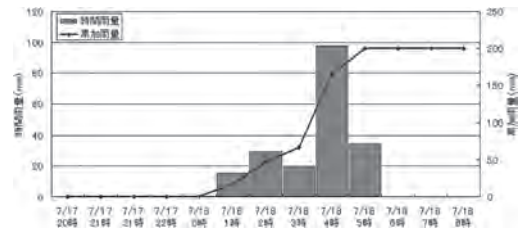
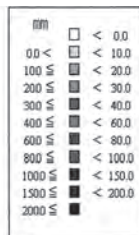
3. 平成25年災害時の状況

7月17日から18日にかけて、日本海にある低気圧に向かって、暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、17日夜には県内の中南部を中心に激しい雨が降り、伊豆では18日未明から朝にかけて非常に激しい雨に襲われました。当町では18日午前3時から午前4時までの1時間に非常に激しい雨を記録し、宇久須観測所で98ミリ、仁科峠観測所で90ミリを観測しました。また、降り始めの午前0時から終息を迎えた午前6時までの降水量は宇久須観測所で200ミリ、仁科峠観測所で188ミリを観測しました。

18日3:57に大雨洪水警報が、4:39には土砂災害警戒情報第1号、5:18に土砂災害警戒情報第2号が発令され、いずれも全国瞬時警報システム（J-ALERT）による町内一斉放送を行いました。



17日16時～18日10時の積算雨量（解析雨量）



宇久須雨量観測所

町は、4:05に事前配備体制を取り、被害の大きかった安良里地区に職員を配置して4:20に避難所を開設しました。4:45に警戒本部・支部を設置、4:50には宇久須地区に避難所を開設し、5:00に対策本部の設置と同時に田子・仁科地区に避難所を開設しました。本部及び各支部職員は町内各地区を巡視し、被害状況の把握に努めました。

仁科地区から宇久須地区を結ぶ唯一の幹線道路である国道136号は土砂の流出や冠水によって通行止めとなり、町道7路線7箇所、林道8路線11箇所、農道2路線2箇所で崩土や崖崩れ、土砂流出、路肩の決壊や路面の洗掘などの被害が発生しました。河川においては、二級河川で2河川4箇所



（二）安良里浜川の状況（H25.7.18）



（二）安良里浜川の沿線の状況（H25.7.18）

所、準用河川で3河川4箇所、普通河川では14河川15箇所において護岸決壊、土石流、埋塞、河床洗掘などの被害を受けました。

また、公共施設も含め町内93棟で床上浸水、426棟で床下浸水、全壊・半壊・一部破損などの建物被害は50棟に及びましたが、幸い人命被害はありませんでした。

なお、公共土木施設災害として14件を申請した結果、368,983千円の決定額となり、局地激甚災害の指定を受けました。

4. 既設設備

土石流が発生した(二)安良里浜川上流には2基の砂防堰堤が整備されており、安良里浜川水系浜川には昭和37年に、同水系のライヤ川には平成6年に砂防堰堤が整備されていました。

今回の土石流は、時間98ミリの局地的豪雨によって地盤が緩み、ライヤ川砂防堰堤の上流で山腹崩壊が発生し、不安定土塊が立木等を巻き込みながら河川を下ったと考えられます。



既設堰堤：H=9.5m，L=44.0m



基岩が露出した様子

被災後の溪流には、基岩が露出した河床の様子が見られ、既設堰堤で5,000m³の土砂を捕捉したものの、土砂流出量が多く、捕捉容量を超えた土砂と立木が下流に流出し、(二)安良里浜川に堆積した3,000m³の土砂と立木が橋梁に挟まり河道を塞いだことにより、河川が氾濫したと考えられます。

既設設備が整備されていなかったとしたら約10,000m³の土砂と立木を含む土石流により被害を更に拡大し、人命被害をもたらしていた可能性は高く、砂防設備の重要性を実感しています。

5. 各方面からの支援

災害発生初日の18日から中部地方整備局沼津河川国道事務所にリエゾンを派遣要請し、翌日にはTEC-FORCE 隊員により、ヘリによる上空からの被害調査の状況画像を衛星回線(ku-sat)を用いて災害対策本部にリアルタイムで配信していただきました。

ヘリでの調査結果を基に地上からの被害概況調査を実施していただいたほか、路面の流出土砂の撤去後には、路面清掃車と散水車による路面清掃を実施していただきました。

静岡県からは、災害査定に向けた技術的な指導や災害査定時の後方支援、被災者の健康相談など、延べ100人以上の職員の方々に手厚い支援をしていただきました。

また、被災翌日には社会福祉協議会により、災害ボランティア本部が設置され、近隣市町をはじめ、姉妹町の長野県富士見町の職員、中学生や高校生、町内企業の方々など8月19日までに17団体



路面清掃車、散水車による路面清掃の状況

2,431人の災害ボランティアの方々に道路や側溝・水路、浸水家屋の土砂撤去などの支援をしていただきました。

6. 災害後の対策

今回の局地的豪雨により土石流が発生した(二)安良里浜川においては、県により既設堰堤の土砂 $V=5,000\text{m}^3$ 及び河川の埋塞土砂 $V=3,000\text{m}^3$ を除去していただきました。また、田子地区の太田川水系仏沢川で発生した土石流による埋塞土砂は町が災害復旧事業で除去しました。

現在、上記の2箇所において、静岡県の災害関連緊急砂防事業による砂防堰堤の工事が急ピッチで行われています。特に被害が大きかった(二)安良里浜川については、既設設備が設置されているライヤ川の右支川にも特定緊急砂防事業による砂防堰堤1基を計画していただいているところです。

また、工事が完成するまでの工事中の作業員の安全確保及び下流域の住民に危険をお知らせする

ため、静岡県により土石流センサーが設置され、センサーが切断された際にはサイレンにより地域住民にお知らせするとともに、関係職員と区長、自治会長に自動通報メールが配信されるようになっていきます。

町では、大雨警報・洪水警報のいずれかが発令された場合に配備体制をとることとしております。

7. おわりに

今回発生した局地的豪雨では、町民及び職員のごほとんどが経験したことのない災害を経験し、近年頻発する局地的豪雨の恐ろしさを目の当たりにしました。

町内各所で土砂流出や冠水、家屋の浸水や破損被害などが発生したほか、公共土木施設以外にも林道施設や学校や幼稚園などの公立学校施設も大きな被害を受けるなど、町内各所に大きな爪痕を残した災害にも関わらず、人命被害がなかったということだけが不幸中の幸いだと強く感じているところでございます。

最後になりますが、今回の災害で迅速な対応とご支援をいただきました中部地方整備局や静岡県をはじめとする各関係機関、早急な対応でインフラ復旧を実施していただきました建設業者の皆様をはじめ、ご理解とご協力を賜りました区、自治会、消防団、地域住民の皆様、災害ボランティアで土砂撤去作業などの支援をいただきました多くの方々に対し感謝とお礼を申し上げます。

施設整備工事概要

箇所名	事業内容
安良里浜川	災害関連緊急砂防事業 砂防堰堤工1基 H=7.0m L=39.0m
仏沢川	災害関連緊急砂防事業 砂防堰堤工1基 H=11.5m L=71.5m
ライヤ川	特定緊急砂防(通常砂防)事業 砂防堰堤工1基(計画中)

